

戦争と平和の資料館

ピースあいちニュース

第52号

2026年7月15日発行

〒465-0091

愛知県名古屋市名東区

よもぎ台2丁目820

電話・FAX 052-602-4222



発行:戦争と平和の資料館ピースあいち

<http://peace-aichi.com/>

【定価:30円】

夏の特別企画

丸木位里・丸木俊「原爆の図」展

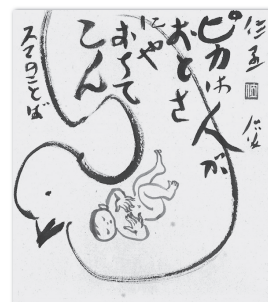
—ピカはひとがおとさにゃおちてこん—

7月21日(火)～9月5日(土) (11:00～16:00最終日は15:00)

開館日 火曜日～土曜日

但しイベントのある7月26日(日)・8月30日(日)は開館(11:00～16:00)

入場料 大人800円 小中高生200円(入館料 大人300円 小中高生100円を含む)



丸木位里・丸木俊は、原爆が投下された直後に位里の郷里広島を訪れ、残留放射能を浴びながら、傷ついた人々の救出にあたりました。「原爆の図」はその体験をもとに1949年から30年の歳月をかけて描いた15部作です。今回は第3部《水》、第14部《からす》を展示します。

ピースあいちでの「原爆の図」展は、2012年に初回を実施してから、これで6回目。今年の夏は、丸木位里の母スマの作品3点「ピカのとき」「内海の魚」「花と猫」も展示します。丸木スマは73歳から本格的に絵筆をとりました。日常の様々なものを見つめ、鮮やかな色彩と“いのち”への暖かいまなざしの作品の数々を残しました。

また、現在行われている丸木美術館リニューアル工事中に発見された資料のうち、1952年～53年に愛知県下で開催された「原爆の図巡回展」のチラシやポスターなども展示します。



第3部《水》1950年 180×720cm



第14部《からす》1972年 180×720cm



《花と猫》1954年 93×65cm

◆関連イベント

○講演

「いま、原爆の図に向き合う」

7月26日(日) 13:30～15:00

丸木美術館学芸員・岡村幸宣さん

○「高校生と学び伝える平和

—トークと映画上映—

8月22日(土) 13:00～

愛友会会長の金本弘氏を交え、愛知淑徳高等学校JRCの

生徒たちが平和をつないでいくことについて話します。その後、イタリアの映画監督ジュゼッペ・カリエリ作『影の書』(50分)を上映します。被爆者へのインタビューを独自の手法でまとめた、昨年の広島国際映画祭上演作品です。

○「ヒロシマ、ナガサキの怒りと祈り

—朗読と映画—

8月30日(日) 13:30～

ピースあいち朗読の会「オリーブ」が丸木俊作「ヒロシマのぴか」他を朗読、その後、『影の書』を上映します。

報告 「戦争体験を語り継ぐ会」

第1回総会を開きました！ 4月19日(日)

語り手の会と語り継ぎ手の会が統合した「戦争体験を語り継ぐ会」の第1回総会が開催され、語り手、語り継ぎ手、事務局を含めて27名が参加しました。昨年度の活動報告、及び今年度の活動計画について説明があり、活動基本方針を確認しました。

総会の後半は会員の近況報告。戦争体験者からは現在の日本の現状を憂える声が、語り継ぎ手からはそれぞれ工夫しながら戦争体験を語り継いでいるというお話がありました。



○活動基本方針

世界各地で戦争や紛争が絶えない今こそ、改めて平和実現への思いを強く持ち、戦争体験の継承活動を広げていく。そのために語り手と語り継ぎ手の交流を深める。語り継ぎ活動の実践とその支援を行い、語り継ぎ活動の質を高めていく。例会をより充実させていく。語りの場を広め、新しい語り継ぎ手を募集するために、チラシを作成して様々な機会を利用してPRしていく。

◎ピースあいち「戦争体験を語り継ぐ会」会員による「語り」を聴きませんか？

ピースあいち2026年夏 戦争体験を聴くシリーズ

開催場所 ピースあいち1階交流ひろば

開催時間 14:00～15:00

参加費 入館料でご参加いただけます
(大人300円 小中高生100円)

*この期間は夏の特別展を開催しています。

特別展入場料 大人800円 小中高生200円(入館料を含む)でもご参加いただけます。

定員・申し込み 各日とも定員40人

要電話予約 ☎052-602-4222

1日、6日、15日はZOOM配信があります。参加無料。申し込みはこちらのコードから→



開催日 8月／	語り手	テーマ
1日 (土)	橋本克巳さん オンラインあり	満蒙開拓団
4日 (火)	大山妙子さん (語り継ぎ)	叔父伯母が私に遺した長崎原爆のこと
5日 (水)	富田祥子さん	3歳児の朝鮮からの引き揚げ
6日 (木)	佐々木陽子さん (語り継ぎ) オンラインあり	ヒロシマの記憶～私の家族、そして、丸木位里・丸木俊の話～
7日 (金)	野村秀夫さん (語り継ぎ)	10歳少年の引き揚げ体験を語り継ぐ
8日 (土)	井戸早苗さん	空襲下の暮らし・戦後の暮らし
11日 (火)	津田さる子さん	名古屋空襲・戦時下の暮らし
12日 (水)	中村桂子さん (語り継ぎ)	娘が語り継ぐ父の沖縄戦
13日 (木)	高山孝子さん	岡崎市に縁故疎開、岡崎空襲を遠望
14日 (金)	松下哲子さん	満洲・奉天からの引き揚げ
15日 (土)	大橋麻由さん (語り継ぎ) オンラインあり	満蒙開拓を語り継ぐ～岩見鈴子さんの戦争～

2026年 愛知・名古屋戦争に関する資料館 戦争体験談を聞く会

開催場所 愛知・名古屋戦争に関する資料館

開催時間 13:30～14:30

参加費 無料 要事前申込

*詳細は愛知・名古屋戦争に関する資料館へ
TEL 052-957-3090

開催日 8月／	語り手	テーマ
10日 (月)	中上 寧さん (語り継ぎ)	きのご雲の下で起こっていたこと
17日 (月)	八神邦子さん	国民学校3年生の学童疎開体験
18日 (火)	中川弘美さん (語り継ぎ)	戦時下の母の青春
19日 (水)	森下規矩夫さん	名古屋空襲体験、戦中戦後の生活
20日 (木)	田中玲子さん (語り継ぎ)	堤さん、桜井さんの熱田空襲
21日 (金)	小澤美由紀さん (語り継ぎ)	小島鋼平さんの「昭和の学童疎開」
22日 (土)	澁谷美子さん (語り継ぎ)	上野三郎さんの戦場体験を語り継ぐ
23日 (日)	中野見夫さん	熱田空襲

予告 この夏、次世代交流チームが 親子イベントを開催します！ 8月29日(土) 随時

昨年実施した小・中学生向けRPGイベントが好評で、それをベースに親子で身近なことから未来について考え、「平和とは」を話し合える内容にブラッシュアップしました！

●11:30～ ●13:30～
絵本の読み聞かせもあります。お楽しみに！



予告 2度目の開催です!
ウクライナの子ども絵画展
—子どもたちが見た戦時下のウクライナ—
9月19日(土)～10月1日(木)

2022年2月、ロシアがウクライナへ侵攻して5年が経ちました。本展は、NPO 法人チェルノブイリ救援・中部が現地パートナー団体の協力を得て学校や絵画教室などに呼びかけ、2023年にジトームイルとキーウから届いた子どもたちの絵画展です。いまだ戦下にある人々の命の重さ、心と体の痛みに思いを寄せ、一日も早く平和の日々が来ることを願って開催します。



予告 平和教育のヒントが見つかる
「教員のための博物館の日
in ピースあいち」今年も!
8月20日(木) 13:30～15:30

教員のみなさんに博物館のことをもっと知ってもらい、利用してもらおうと始まった国立科学博物館と共催の企画。ピース



あいちは昨年から実施しましたが、参加者にはとても好評でした。今年も夏休みの8月20日(木)に実施します。常設展の紹介のほか、沖縄戦の語り継ぎ手のお話や公立中学の教員の実践報告『戦争と平和を学ぶ中学生』もあります。展示資料や、所蔵資料など利用可能なものもご紹介し、平和教育の参考となる情報を提供します。要電話予約 ☎052-602-4222

予告 なぜ紙製のランドセル!?
企画展「戦争の中の子どもたち」と
「戦争と動物たち」
10月6日(火)～11月28日(土)

戦時下の子どもの教育や暮らしを振り返る「戦争の中の子どもたち」展。今回の特別展示は、子どもたちの身近にあった玩具や文具、教科書や雑誌など、実物資料を通して「戦時下の子どもの暮らし」の実情を紹介します。

戦争が長期化するにつれて物資が欠乏し、金属回収令により金属製の玩具や文具も回収の対象になりました。紙製のランドセルや戦闘機が描かれた積み木なども展示。現代の子どもの暮らしと比較しながら、戦争の記憶を次世代の子どもたちに伝えていきます。



紙製のランドセル



戦闘機とラッパが描かれた積み木

○関連イベント

ピースあいち朗読の会「オリーブ」による秋の朗読会

と き 10月31日(土)13:30～14:30

ところ 1階交流のひろば

お知らせ

○ピースあいち夏季休館

9月6日(日)～9月14日(月)

○今年の夏も学生ボランティア

夏休みを活用して、博物館実習生、名古屋市立大学、愛知淑徳中学校、聖霊高等学校などの生徒・学生さんたちがボランティアに参加します。

ピースあいちも参加します。

○愛知サマーセミナーで講座開催

戦争体験を語り継ぐ お話 新美肇世さん
「教育は怖い 中学生の志願兵がいた」

83年前の夏、700名もの生徒が一斉に海軍飛行予科練習生に志願した「愛知一中(現旭丘高)予科練総決起事件」。彼らはなぜ自ら戦地へ向かおうとしたのか。事件に接した父の体験を娘が語り継ぎます。

と き 7月20日(月) 11:10～12:30(2限)

場所 同朋高校

○あいち平和のための戦争展

パネル展示「名古屋北部の軍需工場と空襲」

1944年12月から激しくなったアメリカ軍の日本の軍需工場への空襲。名古屋三菱発動機へは7回も。3月25日の空襲では周辺の市街地にも爆弾が降りそそぎ、1800人を超える犠牲者がでました。この日の空襲で傷を負い、戦後、戦争障害者運動を展開した杉山千佐子さんの証言と米軍資料から空襲の実像に迫ります。

と き 8月13日(木)～16日(日)

場所 市民ギャラリー矢田

平和へのメッセージ

最近のピースあいちは若い方の来館が多くなったと感じています。先日も中学生たちがボランティアになりたいと来てくれました。専門学校や大学のゼミの学生たち、親子連れ…。ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルのガザ侵攻、アメリカとイスラエルのイラン戦争など、国連憲章を無視する動きがリ

アルな現実として可視化されていること、また現政権が軍事費の増大や殺傷力のある武器輸出解禁に舵を切るなど、戦争への不安が増しているからかもしれません。

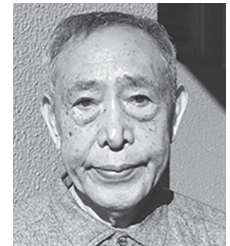
今回も、それぞれの分野で「平和へのメッセージ」を発信されている方々にご登場いただきます。

チェルノブイリ事故から40年の悲劇

10年前、チェルノブイリ事故30周年記念にウクライナを訪問した。追悼集会の翌日、首都キーウ郊外の集落「ゼムリャキ(同郷人)」を訪問した。原発の地元プリピャチから強制移住させられた人達である。この日、子ども達が民族衣装を着て歌い歓迎してくれた。その歌が「ふるさと」と「上を向いて歩こう」。しかも日本語だった。故郷を失った辛い想い、それでも上を向いて歩こうという想いが伝わり、私達も一緒に歌った。あの子達は今、戦地でどんな辛い思いだろう。

昨年11月15日、ゼムリャキ代表タマーラ・クラシツカさんからメールが来た。「アパートが爆撃され、ナターリヤ・ホデムチュクさんが亡くなった(72歳)」という。ナ

河田 昌東
(NPO法人チェルノブイリ救援・中部)



ターリヤさんには何度かお会いした事がある。彼女の夫、ヴァレリー・ホデムチュクさんはチェルノブイリ原発職員で事故当時35歳。爆発した4号炉にいた彼は救援が間に合わず原発内部に取り残され、今も石棺に閉じ込められたままである。ウクライナではチェルノブイリ被害者第一号として知られている。戦争前、彼女は毎年チェルノブイリを訪問し石棺の中の夫を弔っていた。その彼女が今度は戦争の爆撃で亡くなった。お二人が天国で再会出来るよう祈る。

No more Hiroshimas, No more Nagasakis, No more War

1956年8月「自らを救うとともに、私たちの体験を通して人類の危機を救おうという決意を誓い合った」日本被団協宣言から70年を迎えました。

この長い年月、血の滲むような運動の中で先人が築き上げた成果の上に今、私たちがいます。「人類の危機を救う」宣言は、平和を希求する世界から最も求められています。

世界は激動しています。2022年のウクライナ戦争からイスラエル・ガザの戦い、2026年の米国とイスラエルによるイランへの武力攻撃など終わりがみえません。大国が小国を、核保有国が非核国へ核の威嚇を行っています。

国際法を無視した戦いや戦争の中で私たちは「危険な世界」に晒されています。期待した今年のNPT再検討会議は、2000年と2010年に確認した「保有核兵器の完全な廃棄を達成する」との核兵器国による明確な約束」にもかかわらず、今回も合意に至りませんで

金本 弘
(愛友会理事長)



した。日本政府は米国の核抑止政策に頼るばかりでなく非核三原則の見直し、武器輸出の解禁、憲法改定等に向かって軍拡に着手し、国民の戦争への不安を募らせています。しかし、日本被団協は「危険な世界」を変えるために活動を続けます。

昨年の被爆80年運動では、日本被団協は、原水協、原水禁との協働行動で力を発揮、ノーベル平和賞受賞を祝う国民の声に応え、圧倒的な数の証言活動に取り組み、報道各社のアンケートに3000人を超える被爆者が回答しました。今年、数万人の市民が国会前で政府に対する抗議行動に参加しています。これらの行動を力に、日本政府に核兵器禁止条約への参加を求める署名、意見書の取組等、この運動を一步一步着実に前進させていきましょう。

若い世代は平和を学びたがっている

和井田 祐司
(愛知教育大学社会科教育講座 講師)



本学3年生の選択必修科目に、「地域協働教育体験活動」があります。今年度はそこに平和教育コースを新設し、私が担当しています。和菓子づくりや自然体験等の他コースへの埋没を心配していましたが、嬉しいことに定員の20名が埋まりました。受講生に選択理由を聞くと、戦争体験の継承への自覚、無味乾燥な教科書叙述への違和感をもち続けてきたこと、愛知と戦争の主題への関心等々、各自が明確な問題意識を語るのです。学生たちは4月と5月にピースあいちのお力添えのもと学びました。7月現在、小学生向けの平和イベントの企画・準備に取り組んでいます。

この20名が特別な若者、というわけではなさそうです。昨年、NHK放送文化研究所が実施した「戦後80年に関する意識調査(中学生・高校生調査)」に746

人が回答しています。61%が先の戦争や平和に関心をもち、その主たる理由に「日本が二度と戦争を起こさないようにしたいから」「今も世界で戦争や紛争が起きているから」等を挙げています(第14問)。80%が世界で起きている戦争や紛争に関心を寄せ(第34問)、72%が「世界から戦争をなくすことや平和の実現のために、自分も何らかの行動をしたい」と答えています(第41問)。

中・高・大学生は平和学習への意欲を高め、平和創造の主体になりたいと願っている。この事実にも勇気づけられます。同時に、私たち大人が若い世代のこの意欲・願いにいかに応えていくのかが、問われているのです。

感覚と文化の架け橋

丸山 章子
(画家)



平和
すごく願っています
民族を越えられるのか、みんな同じという言葉乗り越えられるのか、
すごく難しくて…
みんなが平和な時にしか生まれない言葉だと思えます
ただひとつだけ思うのは、経済や宗教、民族、五体満足、不満足を乗り越えられるとしたら

五感に向き合うことかな
五感が揃っていない方は ある
分だけでいいから向き合うこと
そこから想像する力が養われる
想像力は考えることに繋がる
ミヒヤエル・エンデのモモの話の中に出てくる主人公が
人との関係に時間をかける
時間は愛を生む
文化が生まれ大事にする

パパになって思うこと

原田 拓郎
(ピースあいち 次世代交流チーム)



近年、世界を取り巻く環境は様変わりしました。武力による一方的な現状変更、自国第一主義、偏った愛国心とアイデンティティが顕著となり、現在進行系で危うさを増しており、軍事、経済大国に対する国際社会の抑止力は意味をなさないと露見しました。国内においても憲法改正の動きが本格化し、戦争が徐々に近づいてきているように思います。数年前から戦争体験者の方々が「あの時代に似てきた」と発言されるのを見聞きしましたが、まさにそうなりつつあります。

それと呼応するように、ピースあいちにも若いボランティア登録が増えています。若い世代の無関心や他人事という意識ばかりに目を向けていましたが、そうではない方々がいることに安心感を抱くとともに、希望を感じます。

反面、子育て世代の無関心や意識の低さも懸念すべきで、仕事と育児に追われ意識を向ける時間がないなど、実際に子育てをしてみて実感するところではありますが、子や孫の時代に戦争をする・できる国になるかどうかは今の選択の先にあるもので、考えるきっかけを提供できるのも親や家庭環境だと痛感します。

先日、父を亡くしました。入院生活が続き、ある程度の覚悟はできていましたが、想像以上の喪失感でした。戦争は多くの犠牲を強います。意図せず強いられる死と向き合う悲しさは想像もできません。そんな思いを子や孫にさせないこと、それが今の私の原動力です。

戦争体験語り派遣事業の取り組み

学校・団体から「戦争体験のお話を聞きたい」という派遣要望に応じて『ピースあいち戦争体験を語り継ぐ会』の会員(約40名)が出前の「語り」を行っています。派遣の依頼理由は、学校では修学旅行の事前学習や社会科の授業として、また地方公共団体や遺族会、平和団体などからも依頼があります。空襲、学童疎開、勤労動員、引き揚げ、被爆体験、現代の戦争・平和についても語っています。

今年の5月17日「なごや平和の日」の記念式典では、語り継ぐ会の近藤世津子さんが中学3年生で名古屋空襲を体験した斉藤孝さんの記憶を映像を交えて次の世代に伝えました。世界で紛争が絶えない今、悲惨な戦争の実相を伝えるとともに、平和の大切さを語り継いでいく「語り事業」の意義が大きくなっています。

報告 「沖縄から平和を考えるーウチナーとヤマトの架け橋に」

5月5日(火)～7月4日(土)

今回はプチギャラリーで、高市首相の「台湾有事」発言以降緊張が高まる南西諸島で進む自衛隊増強の実態や、本土でも広がる長距離ミサイル配備の現状などを示しました。

また阪井芳貴先生監修の特別展示は「首里城と沖縄戦」。首里城地下に日本軍の司令部壕が築かれたため、首里城はもちろん、琉球文化を伝えるたぐさんの美術品などが失われました。

関連イベントとして、5月16日に、大田昌秀、翁長雅志という二人の沖縄県知事が苦悩しながら基地問題に向き合っていく姿を描いた「太陽(ティダ)の運命」を上映しました。

沖縄・慰霊の日を前に、6月20日には沖縄のアブチラガマガイドの當山菊子さんを迎えてお話を聞きました。



沖縄展来館者アンケートから

- 沖縄の戦跡を昨年巡ってきたばかり。首里城下の32軍司令部の壕の展示も興味深く見ることができました。
- 映画「太陽(ティダ)の運命」は、序盤から涙が流れた。何度も繰り返してみたい。2人の知事の強靱な強さと優しさを私たち一人ひとりが決して忘れず、歩むべきだと思う。

- 2階の沖縄戦体験動画がリアルで心を動かされました。
- 沖縄の歴史＝「捨て石」と「強制集団死」の意味がよくわかりました。
- 沖縄のこと、知らないことが多く、想像できる範囲をこえる悲惨、つらかったです。

2026年度の「理事会」「総会」を開催しました

NPO平和のための戦争メモリアルセンターは、5月24日(日)に理事会、6月14日(日)に総会を開催しました。昨年度の事業・会計報告と新年度の活動計画・予算、法改正に伴う定款の一部変更などを決めました。戦後80年の様々な取り組み、語り手の会と語り継ぎ手の会が統合し「ピースあいち戦争体験を語り継ぐ会」が発足し、語り継ぎ活動の新たな取り組みが始まったこと、また学生をはじめボランティアに参加してくださる方が増え、活動の輪が広がったこと、来年のピースあいち20周年に向けた取り組みが進められていること、開館20年近く経ち、設備・機器の不具合も見られ、順次、交換・修繕を進めていく必要があることなどが報告されました。

報告 ピースあいち開館19周年 ピースまつり 5月5日(祝火)

抜けるような青空の下、ピースまつりを開催しました!

今年は久しぶりに前庭で2つのテントショップもあり、道行く方たちにもアピール。1階交流広場ではゆいゆいエイサーとバルーンアート、コンサートなど楽しいステージ企画に終日満席のお客様。2階、3階では展示ガイドも行いました。



ゆいゆいコンサート



展示ガイド

後日、愛知大学野球連盟と名古屋聾学校の生徒さんによるコラボ商品「折れたバット再生品」の売り上げを全額、ご寄附いただきました! (写真は贈呈式)



シリーズ
平和を守る仲間たち②④

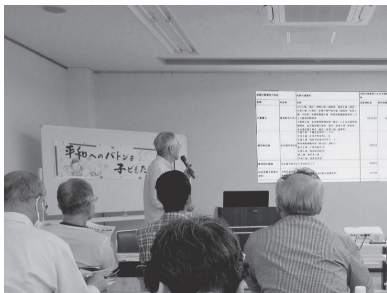
37年目に入った「保存する会」 —瀬戸地下軍需工場跡を保存する会—

1990年1月に発足した会は、今年で37年目になりました。活動としては毎年恒例の行事がいくつかあります。1月には瀬戸市民向けの「地下軍需工場跡現地見学会」を行います。例年は20名以上が参加しますが、今年は寒波の影響か11名と少なかったですが毎年、新しい方が見学に訪れます。3月にはマイクロバスを使って日帰りで行く戦争遺跡巡りツアーを催します。今年は24名の参加で熱田を中心に名古屋市や春日井市の当時の軍需工場跡を巡りました。とくに昨年、「熱田空襲遺跡を守る有志の会」のお力で、撤去されずに保存された「平和地蔵」のお話は感慨深かったです。

5月には地域の平和団体と共催で行っている「戦争を語り継ぐ会」があり、今年は「空襲死4376名、命の記

録」と題して報告会を行いました。これは愛知県下で徴用や動員をされ、空襲で亡くなられた方々の名簿を表計算ソフトに入力した結果について報告したものです。そしてこの名簿から当時、遺品もなく消息不明だった祖父のことを探していたアメリカ在住の方のご依頼に答えることができ、大きな勇気をいただきました。この名簿には、まだ氏名や住所などで不明なところも多々あり、改善していく必要がありますが、今後も名古屋を中心にした空襲で亡くなられた方、消息不明の方の検索をしていただけるものと考えます。8月には「あいち平和のための戦争展」、12月には「空襲戦災を記録する東海交流会」でご報告できると思います。

(事務局長 寺脇 正治)



戦争を語り継ぐ会



戦跡ツアー
(愛知航空機永徳工場の水上機の滑り台/港区野跡)



現地見学会

ボランティアの窓

私の原風景

上田 有見子

私の父は、アジア太平洋戦争で、中国(南支那)の戦場へ行きました。幼いころから、戦場の話を父から、断片的に聞かされました。驚き、恐怖、悲しみを感しながら、まるで映画を見ているかのような映像が当時の私の頭の中に流れていました。その映像は今もなお、私の中で生き続けています。

幼少期は狭い社宅に住んでいたため、私の勉強机の横に家中の書籍が並べられた本棚が並んでいました。その中に、「ナチス虐殺の記録 決して忘れない」(二見書房発行)の写真集があり、直視できないような写真も多くありましたが、何年間かけて、中学校を卒業するころには読み上げました。それらが、私の平和と戦争を考える原風景です。

戦争のない平和な日本(本当は世界と言いたいのですが)がいつまでも続くように、微力ですが活動したいと思っています。



過去に目を開く

長谷川 博樹

月1回の受付と寄贈図書の整理が主な担当です。自称歴史マニアですが、専門的な研究はしていないので、「ちょっと物知り」程度です。ここには色々な資料があって、当番日は勉強の良い機会、と感謝しています。「過去に目を閉ざす者は現在にも盲目になる」

元西独大統領ワイツゼッカーさんの有名な言葉です。今から約30年前、幸運なことに、私はこの言葉をリアルで聞いていました。名古屋の終戦50年記念講演の時でした。なんて重みのある、強い言葉だろう、と感動した覚えがあります。

ピースあいちには、戦時中の庶民のくらしを実感できるコーナーもあります。多くの市民に足を運んでもらい、「過去に目を開いてもらう」ことを願っています。

